

国際ロータリー第2510地区ローターアクト

2009～2010年度

海外研修報告書



とき 2010年1月21日(木)～1月25日(木)
研修先 タイ(チェンマイ)

＜海外研修ねらい・目的＞

- アクター相互の人間的なふれあいによって相互理解を深め、豊かな人間性を育てる。
- チェンマイの歴史的文化に触れるとともに、タイの文化や歴史的遺産に接し、多様な地域特性の違いを認識する。
- ローターアクトとして、この研修を通して研修の意味を理解する。
- 将来にわたり我が国の平和を築く一員となるための心と態度を養う。
- 海外研修の良き思ひ出をつくる。



<スケジュール>

1月21日 08:10 新千歳発

09:55 成田着

10:55 成田発

16:05 バンコク着

19:00 バンコク発

20:10 チェンマイ到着!!



1月22日 観光(コブラショー・エレファントキャンプ・首長族の村・ナイトサファリ)

バーンサバイ訪問

1月23日 チェンマイのRC・RAと交流、車イス引渡し



1月24日 16:30までフリータイム(ドイ・ステープ観光)

16:30 ホテル発

19:15 チェンマイ発

20:25 バンコク着

23:00 バンコク発



1月25日 06:45 成田着

10:55 成田発

12:35 新千歳到着!!

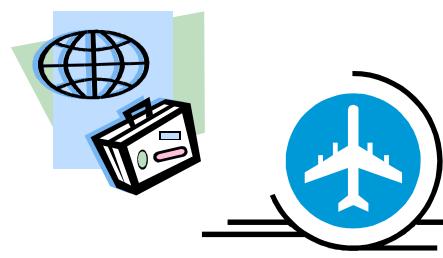
<参加者>

<ロータリークラブ> (敬省略)

柳 孝一 (札幌幌南 RC)

蛇名 大典 (札幌幌南 RC)

大友 淳 (札幌幌南 RC)



<ローターアクトクラブ>

安藤 由香里 (札幌幌南 RAC)

西村 英晃 (千歳 RAC)

中島 陽子 (札幌幌南 RAC)

工藤 瞳美 (赤平 RAC)

村田 美帆 (札幌幌南 RAC)

関戸 祥子 (赤平 RAC)

李 ブンシン (札幌幌南 RAC)

高橋 めぐみ (赤平 RAC)

西澤 里美 (札幌幌南 RAC)

<バーンサバイ訪問>

バーンサバイとは...



バーンサバイは 2002 年 7 月 7 日、タイのチェンマイに開設された HIV 感染者と AIDS 患者のためのシェルターです。タイでは感染者と患者とその家族を地域がサポートするという考え方方が基本にあります。しかし何かの事情で家族がケアできない、その地域に住めないなど様々な事情があります。そのような方々がバーンサバイに入寮します。

HIV と共存しながら生計をたて生活していく方法を一緒に考え、家族との関係調整、長期的な将来設計をサポートします。

入寮者はスタッフと生活を共にしながら自分の生活リズムと健康管理を覚えていきます。



施設の早川さんから施設創設から現在に至るまで、入寮者の方についてなど様々なお話を聞くことができました。



施設の中を見学させていただきました。右の写真は入寮者の方のお部屋です。



2510 地区ローターアクトは地区継続事業としてバーンサバイへの寄付を行っています。今回は札幌幌南 RC 創立 45 周年記念式典で集めた募金とキッチンハイター 3 本、カレンダー 4 枚を持っていきました。

<チェンマイの RC・RAC との交流>

チェンマイの RC・RAC と共にトイレと浄水器をつけた 2 つの学校の完成式に参加しました。札幌西北 RC の寄付で建てたそうです。その他に、札幌幌南 RC の寄付で建てた図書館へ手作りの紙芝居も持って行きました。訪問した 2 つの学校は幼稚園・小学校・中学校が同じ校舎でした。



ホテルまでチェンマイの RC・RAC が迎えにきてくれました。一番右の写真はこの学校の先生がトイレ完成にあたり、感謝の気持ちを述べてくださいました。



安藤代表から一言。その後記念撮影をしました。



幼稚園の生徒、小学生、中学生が休日なのにも関わらず、歓迎とお礼の気持ちを込めて、踊りを披露してくれました。



完成した幼稚園のトイレです。このトイレができるまで 100 人に対し 1 つのトイレしかなかったそうです。

2つめに訪問した学校です。



かわいい女の子達がお出迎え。楽器による演奏、踊りを披露してくれました。



校長先生より歓迎とお礼の言葉をいただきました。



完成した浄水器です。



校舎の見学をしました。そこで印象に残ったのが音楽室でした。タイでは楽器を触る前に神様にお祈りをするそうです。一番左の写真はお祈りをするところです。



チェンマイの RC・RAC と昼食をとり、夜は RAC が買い物に連れて行ってくれました。言葉が通じないながらもたくさんコミュニケーションをとり親交を深めることができました。

＜飛んでけ！車イス＞

飛んでけ！車イスとは…

「飛んでけ！車イス」というNPO法人の団体です。日本で使用されていない車イスを集め、東南アジアを中心とした国に旅行者の手によって車イスを届けてもらう活動をすすめています。今回私たちは2台の車イスを届けました。



中央に写っているのが仲介者の田中さんです。（左の写真）

最後にみんなで記念撮影をしました。

届けた車イスは…

私たちが届けた車イスは、82歳の女性と入院中の僧侶の方が利用しているそうです。僧侶の方は写真に写れないそうで代わりに入院している病院の婦長さんが写ってくれました。



海外研修に参加して

赤平RAC 高橋 めぐみ

今回の海外研修はタイのチェンマイでした。私は海外に行くのが初めてだったので、食事や衛生面、言語など、たくさんの不安がありました。しかし、今振り返ってみると、様々な経験が出来、大変充実した研修だったと思います。

私がこの研修を通して、一番印象に残ったことは2日目に訪れたバーンサバイのことです。

バーンサバイは、HIV感染者とAIDS患者のためのシェルターです。この施設のことについては、日本にいる時から、以前研修に参加したメンバーに話を聞いたことがあります。HIVや、AIDSについては、私にとって、言葉を聞いたことがあるという程度で、感染者や患者さんが生活している様子を、現実として想像することがあまり出来ませんでしたが、施設には、広い庭があり、とても清潔感のあるところでした。施設を見学させていただいたあと、施設の方から興味深いたくさんのお話を聞くことが出来ました。

現在タイでは、身分証明書があれば、無料の医療サービスが受けられるそうです。しかし色々な事情により証明書を手に出来ない方もたくさんいるそうで、そういった方たちがこのバーンサバイに入寮するそうです。やはりその中には、生きるため、お金を稼ぐため、人身売買を行い、感染してしまう方も多いそうです。現在入寮している一人の男性…男の子と言ってもいいでしょうか、19歳の子がそうなのだと思います。来たばかりの時はやせ細っていて、転んだだけで骨が折れてしまうのではないかと心配したそうです。でも現在では少しづつ体調も回復し、施設で庭の手入れなどを手伝い、自立に向けて頑張っているそうです。

私は施設の方が笑顔を滲ませながら、男の子の様子を話してくれるのをみて、嬉しくなった反面、それまでにはたくさんの苦悩があったのだと思いました。

そして、バーンサバイでは病気の治療だけでなく、元気になって退寮した後のことを考え、最近では裁縫教室を始め、自立支援にも力を入れているそうです。実際に身体が回復しても、社会に出て自立した生活を送れなければ、本当の回復にはならないのだと施設の方も言っていましたが、改めて考えさせられることでした。医療的ケアだけでなく、精神的ケアや自立支援も大切なことだと思いました。

そして、この病気の感染をこれ以上広げないことも重要なことだと思いました。未来を担う私達がもっと積極的に取り組まなければならぬ問題なのだと感じました。

この研修では現地のRACとの交流もありました。大変貴重な出会いでした。今回は限られた時間の中でだったので、交流しか出来ませんでしたが、私達はこれから国境を越え、様々な問題を話し合い、協力していくことが大切だと思いました。

今回のタイでの研修は、気候の暖かさに驚き、食べ物に苦戦し、タイ独特のアジアン雑貨屋さんの様な匂いを堪能し、トイレに戸惑い、会話に困り、たくさんの経験が出来ました。そして、日本の良さを改めて感じることも出来ました。このような貴重な経験をさせていただき、ロータリアン並びに関係者の皆様、本当にありがとうございました。機会があれば、是非また参加したいと思います。

海外研修に参加して学んだこと

赤平ローターアクトクラブ
関戸 祥子

今回、私は、人生で初めての海外に行く機会をいただきました。

その中で、まず、HIV感染者とAIDS患者のためのシェルター「バーンサバイ」ディレクターである早川さんと出会い、自分の人生どこで何をするかは「自分次第」であるということを改めて学び、その視野が広がりました。私は話を聞くまで、早川さんのことを見たときに類似する職業で、私には手が届かない地位にいる方であると考えていました。しかし、実際は日本人でタイ語は殆ど出来ず、職業はケースワーカーで最低限の医療的知識しかなく、困っている人を助けたい、守りたいという気持ちでシェルターを立ち上げ運営していました。その強い想いを心から尊敬するとともに、「その気持ちがあれば、誰でも、私にでも、可能である」ということを知りました。私は、今まで歩んできた20数年の人生で学んだ少ない物事の中から選択し、当たり前のように今の毎日を過ごしていました。しかし、日本ではない場所で暮らすこと、また誰かのために自分の人生を使うことも出来ます。このような様々な選択肢を自分の中に取り込むことが出来たことは、私にとって大きな財産であり、今後の人生に活かしていきたいです。

それと同時に、ナイトバザールで子供が夜中に花を売っている場面や、デパート前の道端で横になっている母子、シェルターに入所する過酷な人生を歩んできた少年がいることを知り、「この方々には私たち日本人のように、選択肢はあるのか」と考える場面もありました。日本は恵まれていることを、そうでない方々を実際に見聞きして痛感しました。そして、今このように衣食住に困ることなく生活できる事を幸せに思い、感謝するようになりました。

最後に、このような機会を頂き、ありがとうございました。



平成22年1月21日(木)～25日(月)にかけて、当2510地区は地区行事としてタイのチェンマイへ研修旅行に行ってきました。

成田空港から、約7時間かけてタイのバンコクへ。そして、飛行機を乗り継ぎ1時間後、チェンマイに到着しました。

飛行機を降りた途端、日本とは違う香りがしました。まず、そこに驚きました。

荷物を持って出てみると、チェンマイのロータリアン、アクターのみなさんがジャスミンの首飾りを持って待ってくれました。

また、そこでも驚きました。驚きというより、喜びの方が大きかったです。

初日から驚きの連続でした。

この研修で一番、印象に残ったことがバーンサバイへの訪問です。

バーンサバイはHIV感染者とAIDS患者のためのシェルターであり、

HIVと共存しながら生計をたてて生活していく方法を一緒に考え、長期的な将来設計をサポートしていきます。

ここでは、身売りによって感染してしまった19歳の少年のお話を聞きました。バーンサバイにきたときは、体重30kgがキロをきり、歩くのもままならないくらい病弱だったようです。

それが今では、体重も増え、施設の庭の手入れを手伝えるくらい元気に生活しているそうです。

私たちが施設を出るときに、偶然その少年に会うことができました。こちらを見て、手を振ってにっこりと笑ってくれました。

その笑顔を見た途端、胸が熱くなりました。

辛く、苦しい日々を乗り越え、現在、元気で前向きに生きている姿に感動したとともに今までの生き方を改めて考えさせられました。

この研修では、言葉が通じなかつたり、日常生活の違いで苦戦しながらも、タイの歴史、文化に触れ、多くのことを学び、楽しむことができました。

また、改めて日本という国の良さを感じることができました。

最後に、同行していただいたロータリアンのみなさま、ともに学んだローターアクトメンバーにお礼申し上げます。

そして、このような機会を与えてくださったロータリークラブのみなさまに心よりお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。



千歳ローターアクトクラブ 西村 英晃

千歳ローターアクトクラブから 1 名の参加で私が参加させていただいた。また、地区交流会はあったものの他クラブの人たちとの密な交流も今回が初めてだった。

2010 年 1 月 10 日メンバーは某タイ料理屋さんにて出発直前ミーティングを行った。実際に辛いものが特別好きではなかった私は研修の間毎日 3 食このような料理が続くのかと若干の不安もあったが、それが異国文化を感じる一つの要素だとも思った。なぜなら、プライベートでも仕事でも私の海外で何かを学ぶときの三大要素は 3 つ。

1 つ目は、目で見て脳に焼き付ける。

2 つ目は、鼻で風土を感じる。

3 つ目は、心で何かを感じる。

以上 3 つは私の個人的な事であって、これらを今回の 2010 年 1 月 21 日から 5 日間の海外研修のねらい・目的と共に振り替えてみようと思う。

まず、タイの空港に降り立ち飛行機から連絡通路に入った瞬間に目にしたものは、日本と同じ左側通行の道路、職業柄気になってしまふ普通乗用車並みに台数の多いピックアップトラック。いかにも温暖な気候を思わせる木々。それだけで、氷点下の中から約半日かけて海を越えた私の心をワクワクさせる。さらに今回の研修中に私の目に飛び込んできたものは、テュクテュクと言うドアも無くちょっと排気量のあるスクーターに荷台を付けて後ろ 3 人乗り簡易タクシー的な乗り物。

テレビでは見たことは有るが実際に現地へ行って見た首長族の村では、月に何度かボランティアの先生が来て教えると言う学校、そこで暮らす民族の方と買い物を通じコミュニケーションを図ることが出来たが、彼らは、独自の文化、伝統があり、生活習慣があるようだった。私達世の中では不景気だと言われているが、本当に不景気なのだろうか、と何度も考えた。ただ、デジタル文化の進化、オートマチック化しすぎた社会の流れの中で、生きることに最低限、いや十分なレベルをはるかに超してしまい「贅沢の追求=不景気」になっているのではないだろうか。

次に、飛行場を出た瞬間の匂いは、私の人生経験の中で一言で言うと韓国とオーストラリアの匂いを足して二で割ったような匂いがした。と言っても理解されにくいと思うが、言葉で言うならば「陽気（アバウト）な中にも芯有り」と言った感じである。

実際に街へ行けば、買い物時に最初は 250 バーツだったものが交渉やコミュニケーションをとって行くうちに 120 バーツになったり、センターラインが道路にあるにもかかわらず当たり前かのように反対側車線にはみ出し普通に走ってしまうテュクテュクのドライバーなど、しかし一步寺院に足を踏み入れてみると、とても綺麗に清潔に保たれた敷地内、そこに有る煌びやかな像そこからはタイの文化的信仰心が伝わってきた。

食べ物では出発前より知っていたがとにかく「HOT」な味付けの食べ物が多かった。出てくるものをまず匂いをかいで見ると香辛料のアジアンチックな香りと温暖な気候を思わ

せるココナツの香りがしたりと、いかにも熱帯モンスーン気候と言う言葉がピッタリな、暑さも吹き飛ばしてくれるような辛さのものがあった。おそらく、暑さで疲れた体を癒してくれる、辛さとスパイスなのではないだろうか。余談では有るが、そんな喉を潤してくれるのはやはりシー・ハー・Beerだと思った。

また、夜にテュクテュクに乗った際の夜風を体で感じ、屋台の側では屋台匂いと、夜の昼間とは違うアジアンチックな香りが少しエキゾチックな香りと変化し、雰囲気は何とも言えないタイ独特のものだった。

最後に、チェンマイのローターアクトクラブのメンバーの最初の空港での出迎え、最終日前日の交流では、初めて会った私たちを温かく迎えてくれ、さらにはスーパーなどではタイ語のわからない私に共通語でもある片言の英語で、買いたく探しているものを真剣探してくれたり、ローカルフードを教えてくれたりと大変優しく心温まる交流が出来た。

また、テュクテュクに乗った際、ドライバーさんはさすが商売でやっているだけあり価格交渉はシビアではあるが、いくら値切って無理に安く乗せていただいても、嫌な顔せずに降りる際には「乗ってくれてありがとう」と言う感情が心に伝わってきた。こっちのタクシーのドライバーさんには失礼かもしれないが、私の住むところよりもお客様への有難さが伝わってきて、どの人に乗ってもこの人に乗ってよかったと思った。

私も仕事柄、お客様が居ての私の生活、お客様が居ての収入、1円でも私の会社を利用してくださる方への感謝の気持ちを今後とも忘れてはいけないと思った。

以上私のタイでの海外研修のレポートであるが、今回の研修のレポートを書き終えて、異国を感じると言うことは、自分の生活、文化を考え直すチャンスであり、今回のようなプライベートな旅行と違い研修に参加させていただけると言うことは、神様が私の現状にかけているものが有るから、気づくための機会を与えてくれたものと思い、今後の人生に少しでも役立てて生きたいと思う。



海外研修に参加して・・・

札幌幌南ローターアクトクラブ 安藤由香里

ローターアクト海外研修の行き先は、タイの北部にあるチェンマイでした。海外研修では、主に3つのことを行つきました。①バーンサバイ（エイズのシェルター）への訪問・②チェンマイのローターアクターとの交流・③飛んでけ車いすの会という団体から車いすを運ぶという目的でこの研修を無事に終えることができました。

まず、バーンサバイへの訪問ですが、私は1度訪れたことがあり、今回は2度目でした。バーンサバイでは今のタイでのエイズの現状などの大変貴重なお話を聞くことができ、普段私たちが考えることが少ない病気だと思いますが、改めて考えるきっかけになりました。

ローターアクターとの交流では、チェンマイの皆さんのが温かく迎えてくれて、みんなすぐ打ち解けることができました。言葉はうまく伝わらないこともあるけれど、身振り手振りで意思の疎通をはかりました。国外にも友達ができ、これからもこの交流が無駄にならないように連絡を取り続けていきたいと思います。

飛んでけ車いすの会では、私たちは2台の車いすを現地に運びました。車いすが必要な方に届けることができ、よかったです。直接、車いすを使う方に届けることはできませんでしたが、受け取った写真をいただいたときは、とってもうれしかったです。

今回、初海外のメンバーも多く不安もたくさんありましたが、タイのチェンマイでいろんなところに行って、見たり、お話を聞いたり、現地のアクターと交流することで多くの刺激を受け、それぞれに感じるものがあり、とても勉強になりました。海外研修を通じて学んだことをしっかりと受け止め今後に役に立てていきたいと思います。

この研修を通して、いろいろなロータリーの方にご協力いただきました。研修が無事終わりましたのも皆様のお陰です。どうもありがとうございました。そして一緒に同行していただきました、柳地区ローターアクト委員長をはじめとするロータリアンの皆様、一緒に研修を受けたローターアクトのメンバーの皆さんどうもありがとうございました。

楽しい研修ができましたことを感謝致します。



タイ チェンマイ 海外研修レポート

札幌幌南ローターアクトクラブ

村田 美帆

今回の海外研修の主要な目的として、バーンサバイ AIDS シェルターへの寄付と現状の把握、「飛んだけ！車いすの会」の協力、現地 RC・RAC メンバーとの交流がありました。

バーンサバイ AIDS シェルターの訪問では、タイにおける HIV 感染者や AIDS 患者の実状、課題についてのお話を伺いました。その中で、自立支援が目的であるのに、支援によってバーンサバイへの依存を高めるという現実があり、本当の自立支援を行うことの難しさを知りました。また、このシェルターで過ごす方々の多くは、病気だけではなく、経済的・社会的問題を生まれながらにして持つており、身体的・精神的サポートはもちろんのこと、ソーシャルスキルを身につけられるようなバックアップが必要であるということも学ぶことができました。地域住民からの反対や資金繰りの問題など、様々な困難を乗り越え、志・信念をもって、入居者と共に歩む姿勢に大変な感銘を受けました。私自身も献身的に社会に貢献できるような全人的な生き方を目指したいと改めて思いました。

「飛んだけ！車いすの会」の協力では、2台の車椅子を引き渡しました。荷物が少し多くなるだけの負担で、タイの体の不自由な方の力に少しでもなれたのかと思うと、本当に喜ばしいことであるとうれしく思います。

下の写真は初日のチェンマイの空港で撮ったものです。チェンマイの RC の皆様、RAC メンバーが空港で迎えてくれました。生のジャスミンの花で首飾りをハンドメイドし、いくつも首にかけてくれました。彼らには本当に暖かく迎え入れていただき、食事やナイトバザールの案内などを通して、交流を深めることができました。言葉や文化が異なっていても、RC・RAC といった絆が国境を越え、人と人をつなぐ架け橋となっていることを強く感じました。また、私は札幌幌南 RAC に入ってまだ日が浅いのですが、この研修を通して、札幌幌南 RC の方々、赤平や千歳、札幌幌南 RAC メンバーの意外な一面をみられました。素敵な仲間たちと研修に来られたことを心から感謝しています。

今回の研修で、異国文化に触れることで、今まで自分は狭い世界で生きていたことを痛感させられました。タイ国のこと、現地住民の生活や考えを知ることで、世界や地球といったグローバルな視点が養われたとともに、当たり前だと感じていた日本の風習が素晴らしい、誇れるものであることを実感しました。5日間という短い期間でしたが、このレポートに書ききれないかけがえのない出会い、学び、宝物を頂きました。このような機会を得られたことを大変うれしく思います。ありがとうございました。



海外研修に参加

して

幌南ローターアクトクラブ 中島 陽子

初めて海外に行く、それだけで楽しみで仕方ありませんでした。絶対に今まで感じた事のない事を感じ、いろんな体験が出来る、と思っていました。英語も話せないのにどうやってタイの人たちと交流するのか、出発前にいろんな人から言われたけど、『どうにかなる。』と変な自信さえありました。

今回の海外研修で、いろんな体験をさせていただきました。チェンマイの空港に着いた時、現地のアクトのみんながジャスミンの首飾りを持ち、ローターアクトと言うだけで無条件に受け入れてくれた事がとても嬉しかったです。移動時間もかなり長かったので、疲れもたまっていくはずなのに、とても充実した時間を過ごさせていただき、最後はもっと長くチェンマイに居たいと思うほどでした。

日本に帰国して改めて思ったのは、『自分は日本の伝統文化をあまり知らない』という事です。待ち合わせまでの少しの時間で、チェンマイのアクトのみんながタイの伝統の踊りを教えてくれました。異国の文化や伝統的なものは確かに新鮮に映ります。ですが、今回と立場が逆だったら、と思うと自分も母国の事をもっと知っていないと駄目だと思いました。

今回学び、感じた事をもとに、自分のやりたい事を見つけ社会の一員として成長できるように努力したいと思います。

最後になりましたが、海外研修という素敵なもので普段自分の力だけでは感じる事のない事を感じ、勉強できたのもご支援してくださったロータリークラブの皆様のおかげだと思っております。本当にありがとうございました。



海外研修に参加して

札幌幌南ローターアクトクラブ

西澤 里美

一番印象に残ったのはバーンサバイ訪問です。早川さんが話してくれた入寮者の方々のエピソードは、国籍や身分証明書が無い・読み書きが出来ない・ドラッグや生きるための売春など、日本では考えられないような壮絶な話でした。驚くと共に、いかに自分が恵まれた環境にいるか、それなのに何も考えずに日々を過ごしていないか、もっと自分にすべきことがあるのではないか、ということを感じました。

早川さんは、ここまで続けてくることが出来たのは「自分たちが軽率だったから何も考えずに始めてしまった」とか「運がよくラッキーだったから」とおっしゃっていました。たとえそうだったとしても活動を始めた最初の一歩の勇気に感動しますし、今まであった様々な困難を乗り越えてきた力が凄いと思います。生半可な思いでは成し遂げられない事だと思います。早川さんの熱い思いや活動に賛同し応援している人や、助けてもらって感謝している人が、たくさんいることが自然と伝わって来ました。

チェンマイのロータリーの方々やアクトのみんなとの交流は、とても楽しいひと時となりました。到着時の賑やかな歓迎にも驚きましたし、アクトのみんなは地元の人々にも人気のサタデーマーケットに連れて行ってくれたり、空港に見送りに来てくれたりと、あたかいおもてなしに感謝でいっぱいです。

自分は旅行会社に勤務しているので、今回の海外研修の手配・添乗をさせていただきました。通常手配するのは大半が楽しい遊びの旅行ですが今回バーンサバイを訪問して、今の日本の若者にも世界の文化や宗教・様々な事情をもっと見てもらい、自分の人生についても考えてもらうきっかけとなるような旅行に今後携わることが出来たら、と強く感じました。

また今回の海外研修に参加したメンバーの中には、始めての海外旅行というアクトも多かったので、みんなの期待や不安がビシビシ伝わってきて私にとってはとても新鮮で楽しいものでした。匂い・味・気温・言語・宗教・文化など全てが、自分が知っているものと違う世界を自分の身体で直接感じることは、実際に経験した人しか分からない感動があります。また世界に出て日本を外から見てみることも大切なことだと思います。日本の素晴らしさを感じることが出来ると思います。もし参加したメンバーが今回の海外研修で何か得たものがあったなら、私ってちょっとイイ仕事しているな～と勝手な自己満足の瞬間であり、仕事への活力です。

そんな今回の海外研修に感謝です。皆様ありがとうございました。

海外研修報告書

札幌幌南ローターアクトクラブ
リ ブンシン

今年の1月には一日をかけて真冬から真夏に飛んできました。初タイと初海外研修でした。熱帯に行くことも、ローターアクトとして研修することも、初めてなので、人生初体験だらけでした。この旅で、タイの民族舞踊を教われ、冷たい蛇を触ったり、一番揺れる象車を乗ったり、見た事がない虫を試食したりしてきました。そして、鮮やかな熱帯の果物や野菜を食べたり、マッサージしてもらったりして、南国こそがあるおもしろみを味わいました。

タイに到着した途端、興奮の気持ちを抑えられなく、叫びたかったです。

だが、この新鮮味を持つこと以上に思うことと感じたことがたくさんありました。その中に特に感じたのは人とのふれあいです。

まず、タイのローターアクターとの交流です。最初の到着する日に空港で迎えに来てくれて、手作りのジャスミンの花の首飾りを掛けてくれた事から、毎日夜遅く付き合ってくれて、私たちが知らないことを一生懸命手振り・身振りで教えてくれて、ナイトバザールではぐれないと手を繋がつてくれることまで、いろんな感動を与えるがありました。

言葉があまり通じなかつたが、決してその人間的なふれあいは言葉を使わなくても、心で通じるもののです。これは、私が来日したばかりの時の感覚が蘇りました。やはり、世界にはどこでも同じです。心での交流であれば、どこでも通じます。

このいろんな交流の中で、最も心を叩くのは、今回の海外研修の主な目的であるバーンサバイ(HIV 感染者や AIDS 患者のためのシェルター)の訪問でした。

私のその感動をもたらす人物はバーンサバイの設立者であり、今唯一に施設に住み込む管理者である早川さんです。世間に理解されなく、周りの地域の人に嫌われる仕事に携わり、長年全心身に献身している姿を早川さんから生でうかがえました。施設を訪問し、早川さんの話を聞いて、すごく心を揺り動かしました。「今の世間にはこのような人もいるなあ」「こういう仕事もあるなあ」「現代社会では金本位という環境で、バーンサバイのようなそれをすっかり捨てる場所もあるなあ。」と大変インパクトを受けました。インタビューのように質問を絶えずに伺い、人間、社会、国境などの問題を新たに考え直しました。

タイの海外研修はこういうように感動と喜びと驚きをまじって、行ってきました。

チェンマイの歴史的なお寺の見学、タイの地理・風習に触れ、地区のアクターとの交流、タイのアクターとのふれあい、ロータリアンの方々のご指導と励ましを、5日間でそれほど濃い勉強とインパクトは今までなかったのです。そのチャンスを下さるロータリアンの方々と主催する方々に大変感謝しています。これから、タイで学んだこと、感じたことを活かして、社会に貢献ができる人間になるよう努力を絶えないように決心します。



発行日 2010年 2月

編集 2009-2010 年度地区広報 赤平 RAC 工藤 瞳美

E-mail : d16003@yahoo.co.jp (工藤)